

船舶事故調査報告書

平成28年6月23日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成28年4月8日 14時10分ごろ
発生場所	長崎県五島市福江島北西岸 五島柏崎灯台から真方位236° 1,070m付近 （概位 北緯32° 46.8′ 東経128° 39.3′）
事故の概要	漁船桜丸Ⅱは、南東進中、乗り揚げた。 桜丸Ⅱは、船底に破口等を生じた。
事故調査の経過	平成28年4月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 桜丸Ⅱ、3.2トン NS3-604669（漁船登録番号）、個人所有 7.25m (Lr) × 2.82m × 1.25m、FRP ガソリン機関、243kW（動力漁船登録票による）、平成4年5月22日 第293-25856号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成22年6月25日 免許証交付日 平成27年5月11日 （平成32年6月27日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底に破口及び擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期、潮流 約1ノットの南西流
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、福江島西北西沖で漁を終えて五島市水ノ浦漁港に帰るため、針路を福江島柏崎に定めて漁場を出発した。 船長は、操縦席に腰を掛け、約10km/hの対地速力で自動操舵により南東進していたところ、出発から約5分後に眠気を感じたが、軽い眠気であったので居眠りすることはないだろうと思い、同じ姿勢で見張りを続けた。

	<p>船長は、平成28年4月8日14時10分ごろ、ドンという音と振動で目覚めて周囲を確認したところ、近くに陸岸が見え、本船が福江島北西岸に乗り揚げたことに気付いた。</p> <p>船長は、機関を後進にかけて離礁を試みたができなかったので、機関を停止して上陸し、僚船、所属する漁業協同組合及び海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>本船は、僚船によって沖に引き出されたのち、9日に最寄りの五島市^{かしわ}柏漁港までえい航されて陸揚げされた。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図、写真1 本船の損傷状況 参照)</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首が約0.8m、船尾が約1.4mであった。</p> <p>船長は、7日には荒天で休漁し、21時ごろ就寝しており、8日04時ごろ起床して五島市福江港の市場にいけすで保管していた魚を卸に行ったのちに出漁したが、疲れ等を感じていなかった。</p> <p>船長は、日頃から帰港する際には、目測で柏崎に向けて自動操舵とし、本船が風潮流によって圧流された際には、途中で針路を修正していた。</p> <p>船長は、日頃、眠気を感じた際には、音楽をかけたりにして居眠りを防止していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、福江島西北西沖を自動操舵で南東進中、船長が居眠りに陥ったことから、福江島北西岸に向かう態勢で航行していることに気付かず、同島北西岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、眠気を感じた際、海上が平穏な状況下、操縦席に腰を掛けた姿勢で見張りを続けたことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、風潮流に圧流されたことから、福江島北西岸に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、福江島西北西方沖において、南東進中、船長が居眠りに陥ったため、福江島北西岸に向かう態勢で航行していることに気付かず、同島北西岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操船中に眠気を催した際には、外気に触れたりするなどして居眠り防止に努めること。

付図1 事故発生経過概略図

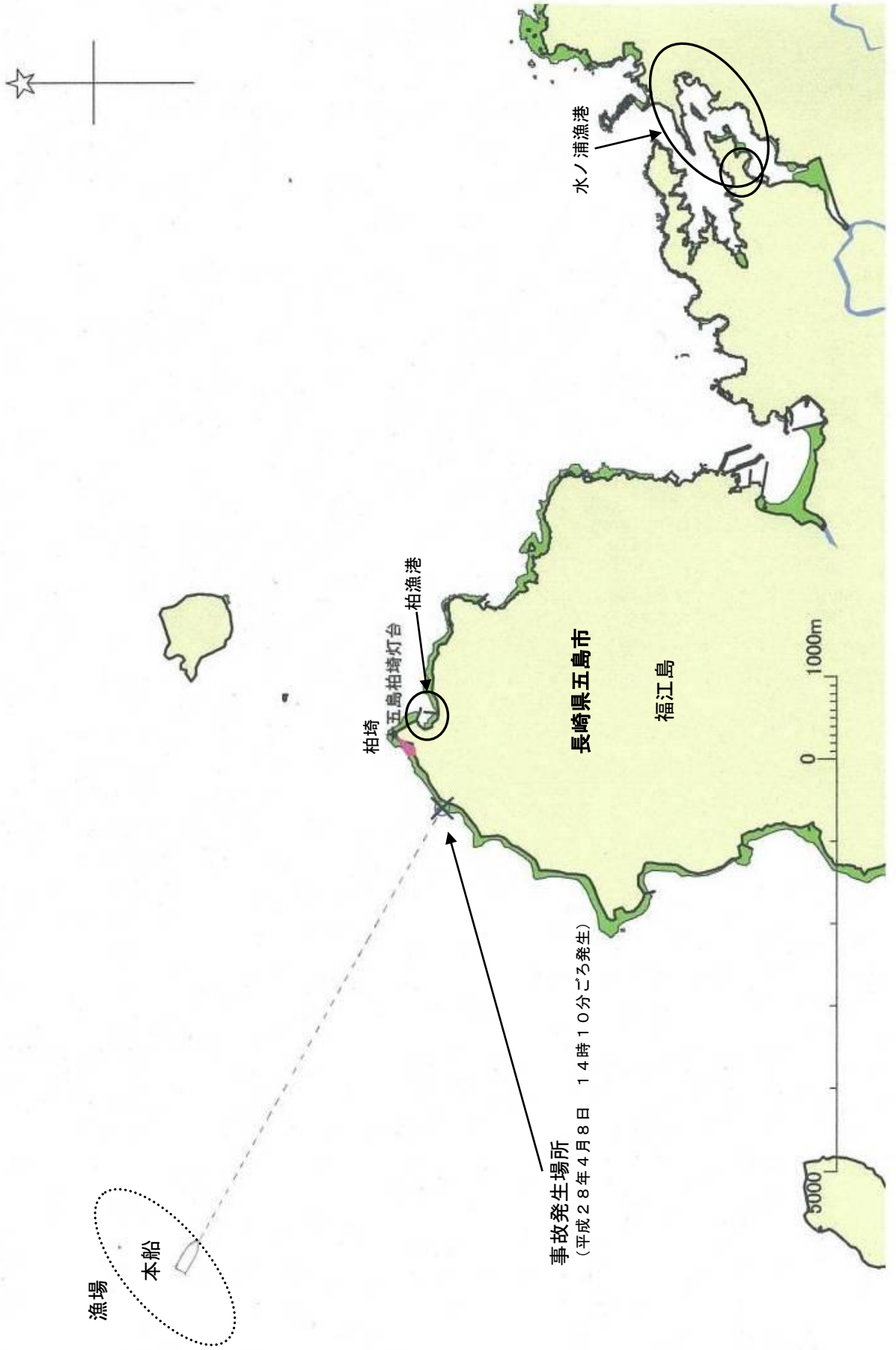


写真1 本船の損傷状況

